

第2章 人吉市を取り巻く環境

1 人吉市の現在

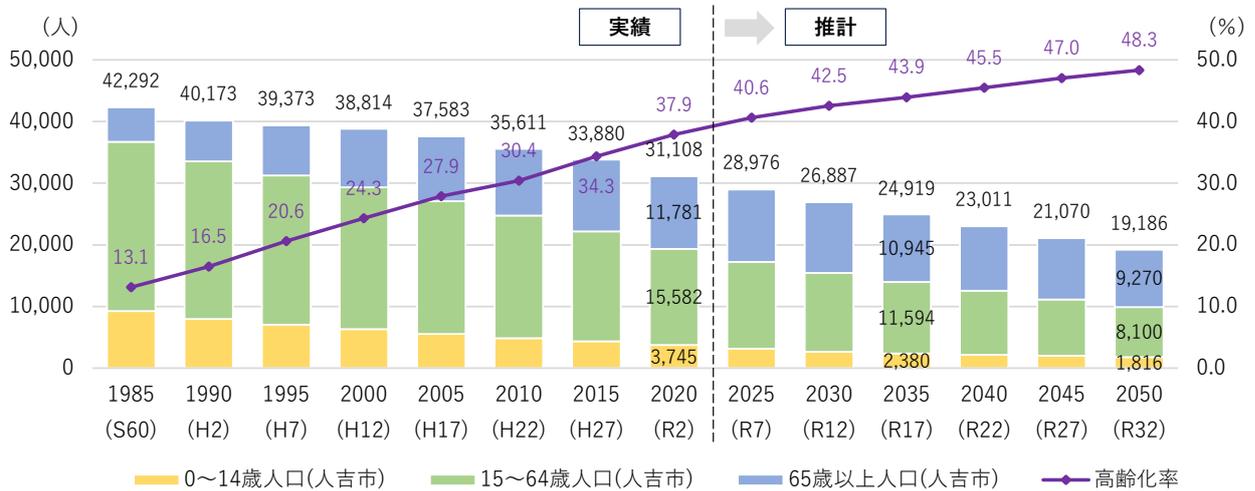
計画改定の方向性や視点の検討に当たり、人吉市の現在について整理します。

1) 人口動向

- 本市の人口は、1955(昭和30)年の47,877人をピークに減少傾向に転じており、2024(令和6)年12月末時点では29,741人とピーク時の約6割となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、今後30年間で約1万2千人が減少し、2050年には総人口が2万人を割ると見込まれています。
- 年齢別には、高齢化が進行し、2035年と2050年にはそれぞれ、高齢者は10,945人と9,270人、高齢化率は43.9%と48.3%で、約半数が高齢者になると見込まれています。
- 地域別には、令和2年7月豪雨の前後で被害の大きかった重点地区の人口を2020(令和2)年6月と2024(令和6)年6月で比較すると、水害前の14,461人(45.3%)から12,823人(42.9%)へと減少しており、回復に時間を要しています。
- 地域別の人口動向*をもとに人口推計を行うと、まちなかエリアは市全体と比べ減少傾向が大きく、市全体に対する割合も小さくなっています。

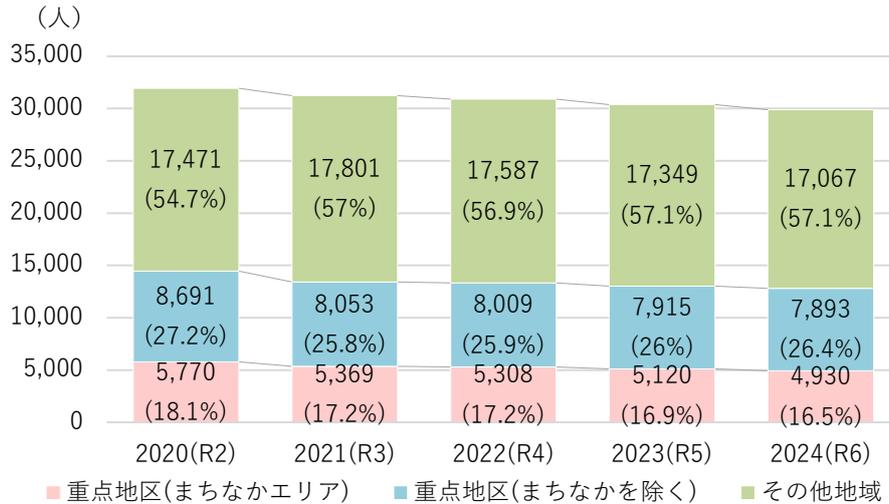
※水害前までの過去10年間（2005～2015年）の移動状況

■人吉市の人口の推移と見通し



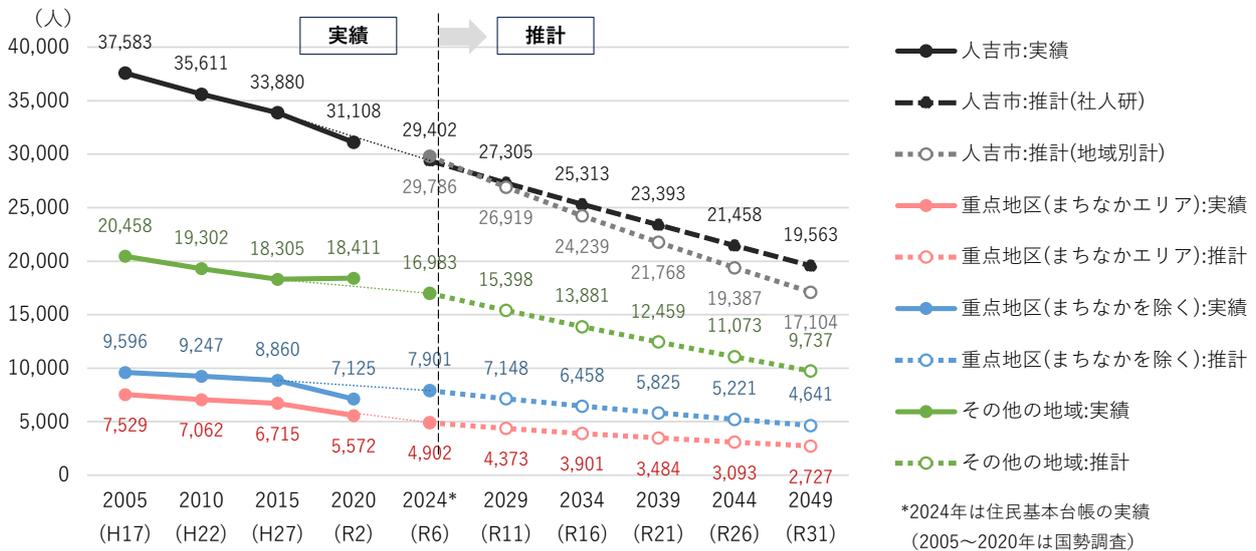
資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

■ 水害前後の地区別人口割合の変化



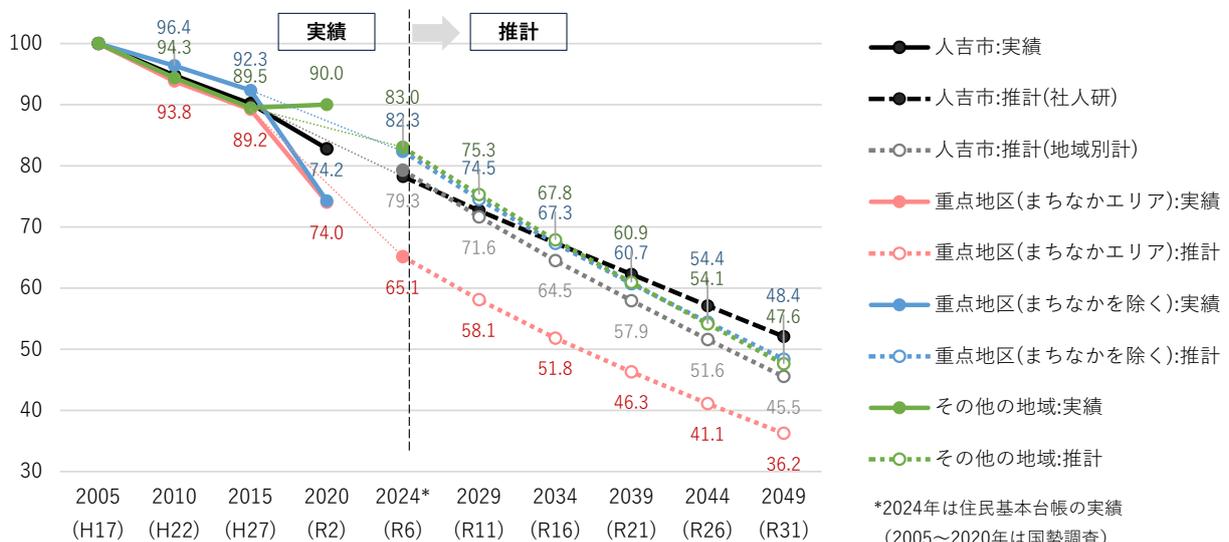
資料：住民基本台帳（各年6月）

■ 地区別人口の見通し



*2024年は住民基本台帳の実績（2005～2020年は国勢調査）

■ 地区別人口の見通し（2005年を100としたときの増減（指数））



*2024年は住民基本台帳の実績（2005～2020年は国勢調査）

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、住民基本台帳をもとに独自に推計

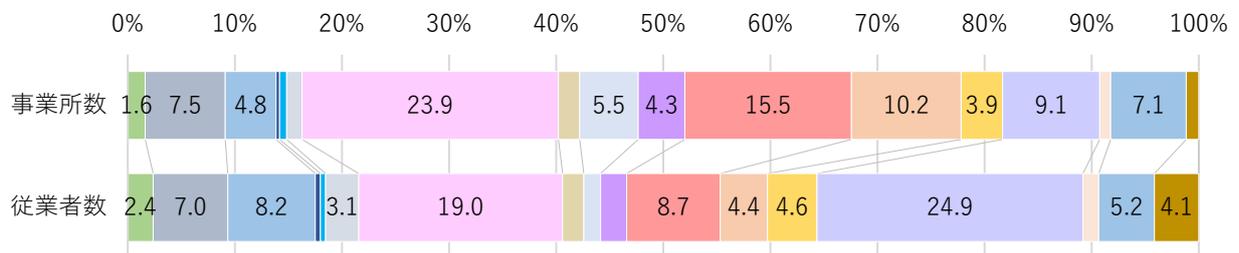
2) 産業・働く場

(1) 人吉市の産業構造

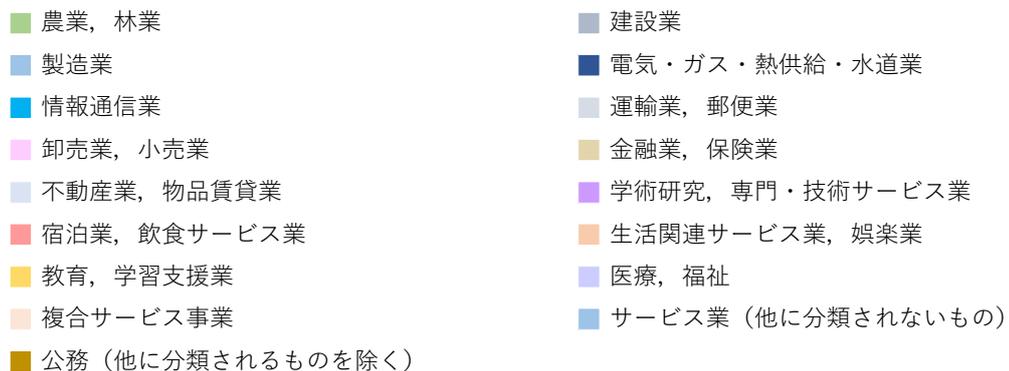
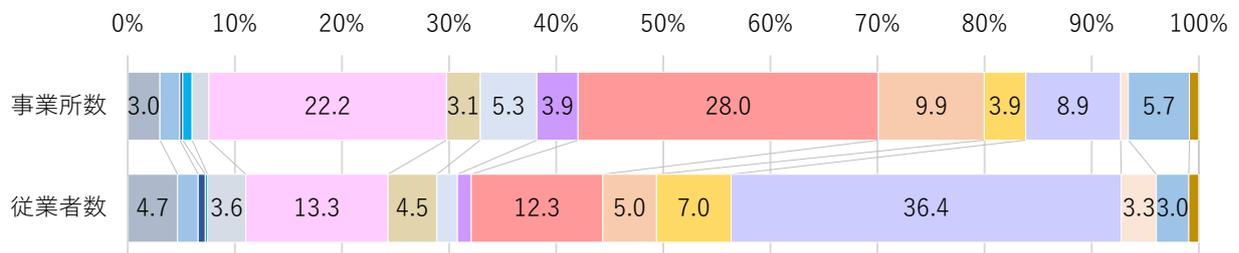
- 本市の産業構造は、第三次産業の占める割合が高く、従業者数では第一次産業 2.4%、第二次産業 15.1%、第三次産業 82.5%という構成比になっています。
- まちなかエリアでは、市全体に比べて事業所数では宿泊業及び飲食サービス業の割合が高く、従業員数では医療、福祉の割合が高いのが特徴です。

■人吉市の産業構成

【市全体】



【まちなかエリア】



資料：令和3年経済センサス・活動調査

（2）通勤・通学の状況

- 本市の2020(令和2)年の通勤・通学の状況を見ると、流入は錦町、あさぎり町、山江村の順に、流出は錦町、あさぎり町、相良村の順に多く、2,685人の流入超過となっています。
- 昼夜間人口比率は、108.8%と熊本県平均（103.1%）を上回っており、人吉市は、人口減少下においても人吉・球磨地域における拠点性を維持しています。

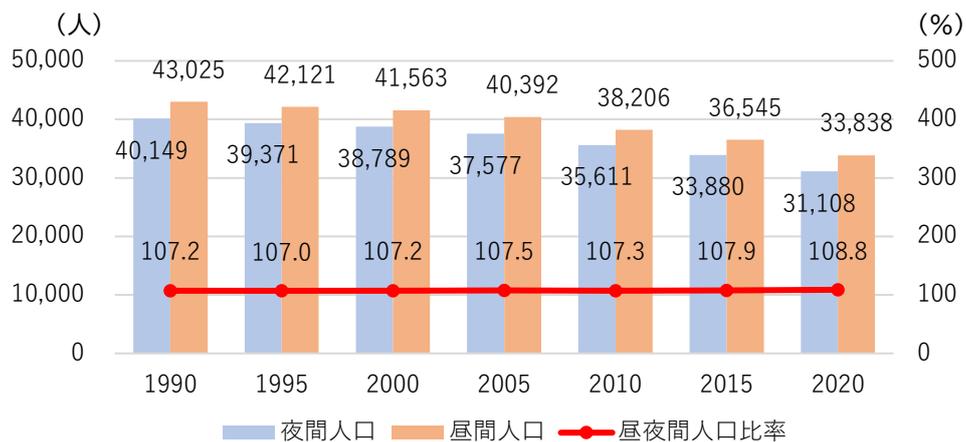
■通勤・通学の状況

市内への流入者数：5,976人				市外への流出者数：3,291人			
順位	市町村名	人数	割合	順位	市町村名	人数	割合
1位	熊本県錦町	1,508人	25.2%	1位	熊本県錦町	1,031人	31.3%
2位	熊本県あさぎり町	1,124人	18.8%	2位	熊本県あさぎり町	551人	16.7%
3位	熊本県山江村	696人	11.6%	3位	熊本県相良村	375人	11.4%
4位	熊本県相良村	571人	9.6%	4位	熊本県多良木町	243人	7.4%
5位	熊本県多良木町	512人	8.6%	5位	熊本県山江村	189人	5.7%
6位	熊本県球磨村	422人	7.1%	6位	熊本県球磨村	176人	5.3%
7位	熊本県熊本市	253人	4.2%	7位	熊本県八代市	110人	3.3%
8位	熊本県湯前町	172人	2.9%	8位	熊本県熊本市	97人	2.9%
9位	熊本県八代市	130人	2.2%	9位	宮崎県えびの市	66人	2.0%
10位	熊本県水上村	86人	1.4%	10位	熊本県五木村	60人	1.8%
	その他	502人	8.4%		その他	393人	11.9%



資料：令和2年国勢調査

■昼夜間人口の推移

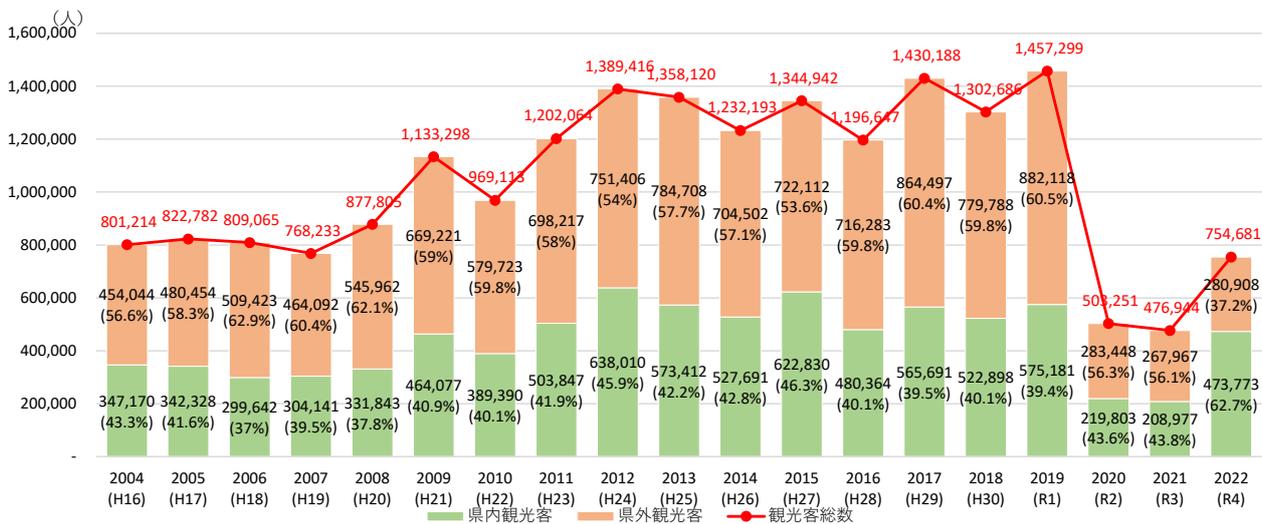


資料：国勢調査

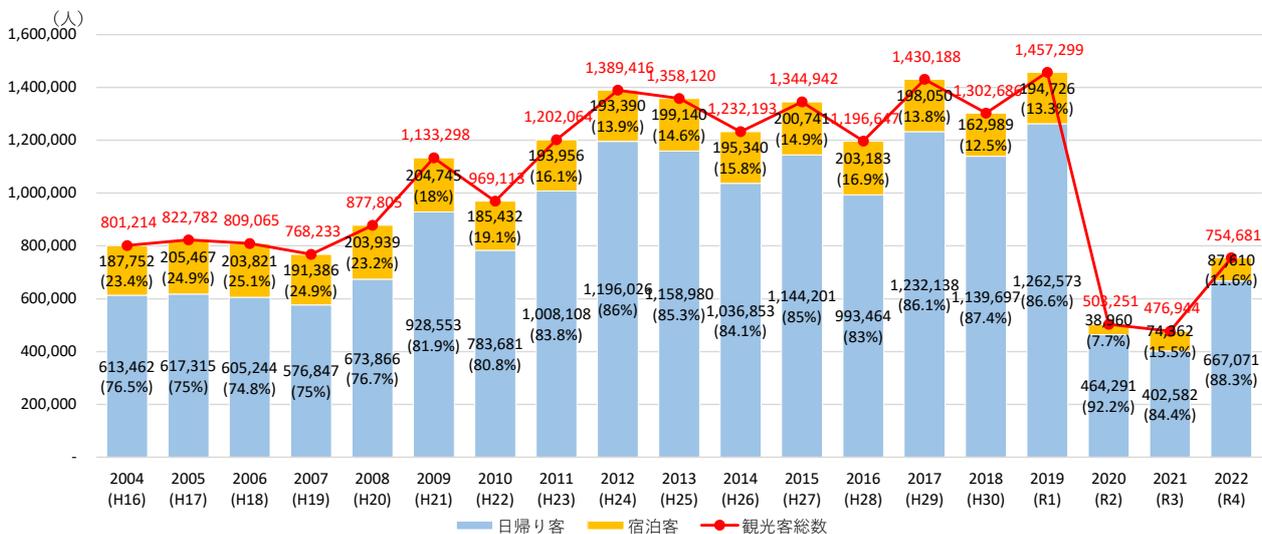
3) 観光

- 観光客数は、災害前の1,457,299人から、2021(令和3)年には476,944人まで減少し、新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いた2022(令和4)年は754,681人に増加し、災害前の約半分まで回復しました。
- ただし、熊本市や宮崎県の主要都市はコロナ禍前の水準まで回復していることを勘案すると、回復が遅れていると言えます。
- 観光客の内訳は、日帰り客が約8～9割で、宿泊客は全体の1割程度にとどまっています。
- 県内/県外の内訳は、災害前よりも県内観光客の割合が高くなっており、要因として、鉄道網が復旧していないことや人吉駅まで乗り入れる高速バスの本数が限られており、人吉IC止まりであることが考えられます。
- 熊本県内に宿泊する外国人延べ1,000,531人のうち、人吉・球磨地域の宿泊者数は16,473人で、県全体の1.6%にとどまっています。

■県内外観光客数の推移

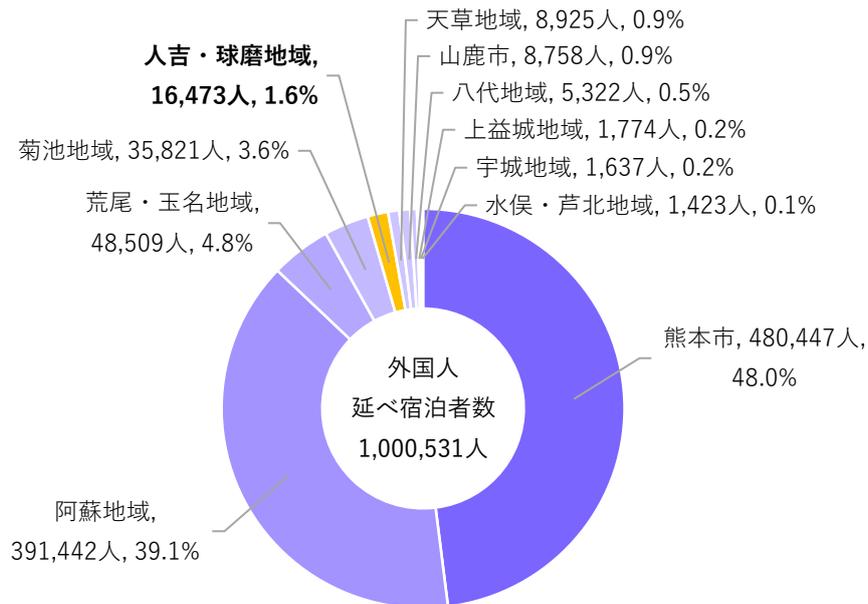


■日帰り・宿泊観光客数の推移



資料：人吉市統計年鑑（市観光振興課「県観光統計表」）

■外国人延べ宿泊者数における地域別構成比（令和5年）



資料：令和5(2023)年熊本県観光統計表